えんちょう先生の わくわくだより

NO. ２　４／２５

４／１８年長さんがキュウリの種をポットに蒔きました。年中さんは、職員室に「園長先生、ピーナツを畑に作るから、種を買ってください」と声を揃えて、言いに来ました。未満児の先生は、「今年は未満児で小さな田んぼをつくります。こども達は出来たお米で美味しい物を食べる役で～す」と言います。年少組の先生は、慣れないこども達にてんてこまい。でも、「皆が早く園の生活に慣れお散歩に出掛けられる時が楽しみです」と。

年少さん、泣き声が止まった４月１８日の１０：３０分！

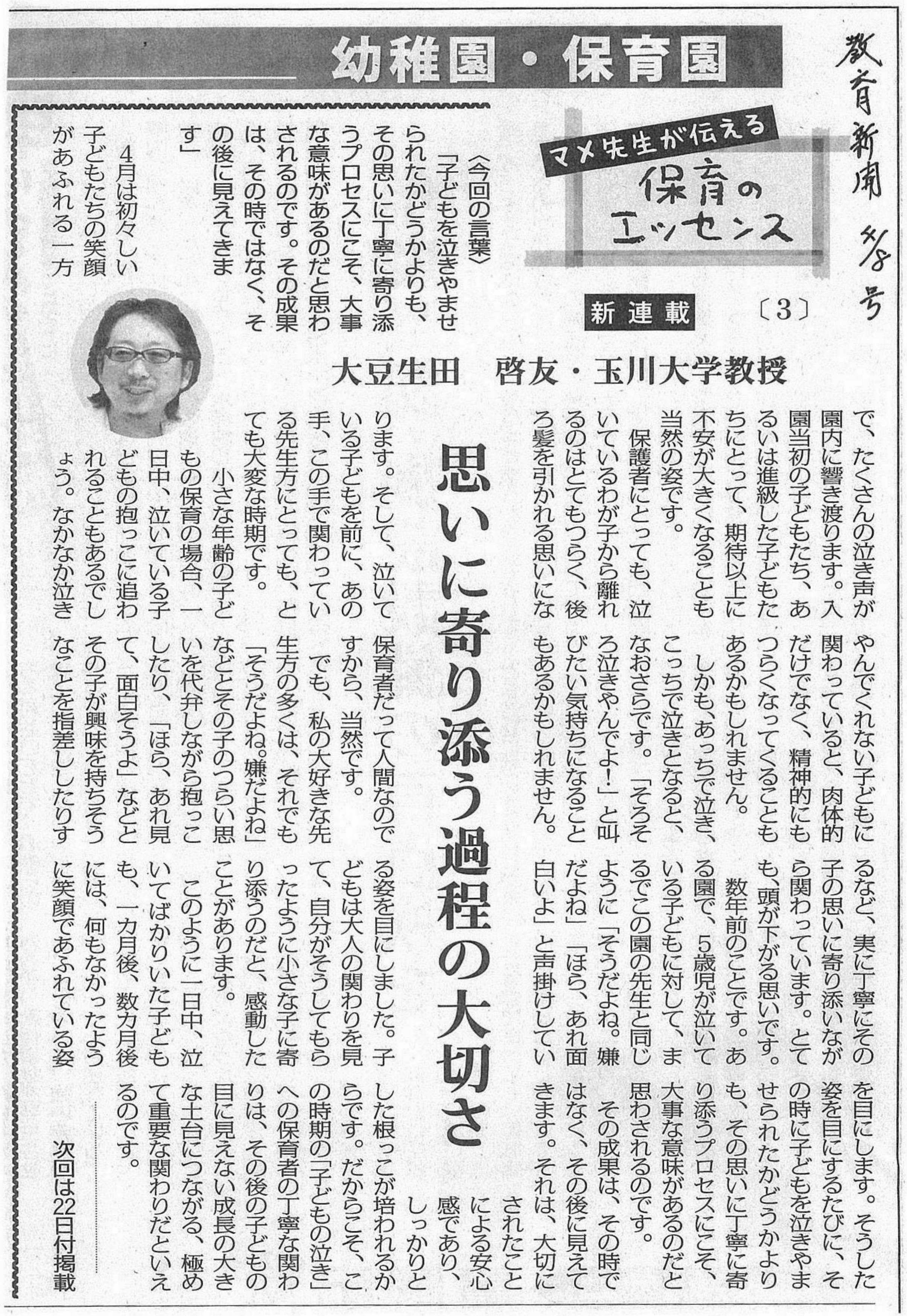
相変わらず、あちこちから誰かの泣き声が聞こえてくる登園時の年少組保育室。それでも、朝のラジオ体操や、「たけのこ体操」をみんなでやったり、音楽に合わせてみんなでスキップをする頃には、その泣き声も少なくなって来ていた。この日もそんな朝を過ごし、それぞれに保育室に向かう。始めて新しい粘土ベラを貰っての粘土遊びに、みんな座って、早速粘土を切り始める．切って切って・・まるめてのばして・・気がつくと、

「あれ？泣き声がない!」桜組も桃組もみんな粘土遊びに夢中。ほんの３０分位だったけれど、入園から始めて泣き声の止まった時間を過ごせました。こんな時間が日常になる迄には、もう少し掛かりそうです。大型連休後は又逆戻りもありえますが、ゆっくりゆっくりですね。未満児組の小さい子も、随分園の生活に慣れて来て、昼食時には泣かずに、美味しいおかずを待てる様になっているよ。

半月前にはみぞれが降ったのに、急な気温の上昇で夏日になったりと、身体の不調が出やすいこの頃です。こども達の中にも、急な発熱、嘔吐、咳で欠席する子、中には肺炎になってしまった子もいます。新年度の始まりも手伝って、新入園児だけでなく在園の子も体調を崩しやすい様ですので、やっぱり夜は早く寝る様に心掛けるといいですね。これから、大型連休で出かけられたり、お客さんが来たりと普段と違う生活が続くと思いますが、大人の都合で子どもの生活のリズムを崩さない様に過ごして頂きたいと思います。お休み後は、又、元気に登園してね。

第1回役員会

４月２４日（水）今年度の保護者会四役さん、支部長さん、副支部長さん、クラス委員さんが集まり、第１回目の役員会で、今年度の行事や、規約の改正について話して頂きました。５月２４日の総会には、保護者の皆さんに承認して頂き、本格的に今年度が始まっていきます。役員さんには一年間お世話になりますが、宜しくお願い致します。



教育新聞 5/8号

幼稚園・保育園

マメ先生が伝える

保育のエッセンス

新連載　〔3〕

大豆生田　啓友・玉川大学教授

思いに寄り添う過程の大切さ

〈今回の言葉〉

「子どもを泣きやませられたかどうかよりも、その思いに丁寧に寄り添うプロセスにこそ、大事な意味があるのだと思わされるのです。その成果は、その時ではなく、その後に見えてきます」

4月は初々しい子どもたちの笑顔があふれる一方で、たくさんの泣き声が園内に響き渡ります。入園当初の子どもたち、あるいは進級した子どもたちにとって、期待以上に不安が大きくなることも当然の姿です。

保護者にとっても、泣いているわが子から離れるのはとてもつらく、後ろ髪を引かれる思いになります。そして、泣いている子どもを前に、あの手、この手で関わっている先生方にとっても、とても大変な時期です。

小さな年齢の子どもの保育の場合、一日中、泣いている子どもの抱っこに追われることもあるでしょう。なかなか泣きやんでくれない子どもに関わっていると、肉体的だけでなく、精神的にもつらくなってくることもあるかもしれません。

しかも、あっちで泣き、こっちで泣きとなると、なおさらです。「そろそろ泣きやんでよ！」と叫びたい気持ちになることもあるかもしれません。保育者だって人間なのですから、当然です。

でも、私の大好きな先生方の多くは、それでも「そうだよね。嫌だよね」などとその子のつらい思いを代弁しながら抱っこしたり、「ほら、あれ見て、面白そうよ」などとその子が興味を持ちそうなことを指差ししたりするなど、実に丁寧にその子の思いに寄り添いながら関わっています。とても、頭が下がる思いです。

数年前のことです。ある園で、5歳児が泣いている子どもに対して、まるでこの園の先生と同じように「そうだよね。嫌だよね」「ほら、あれ面白いよ」と声掛けしている姿を目にしました。子どもは大人の関わりを見て、自分がそうしてもらったように小さな子に寄り添うのだと、感動したことがあります。

このように一日中、泣いてばかりいた子どもも、一カ月後、数カ月後には、何もなかったように笑顔であふれている姿を目にします。そうした姿を目にするたびに、その時に子どもを泣きやませられたかどうかよりも、その思いに丁寧に寄り添うプロセスにこそ、大事な意味があるのだと思わされるのです。

その成果は、その時ではなく、その後に見えてきます。それは、大切にされたことによる安心感であり、しっかりとした根っこが培われるからです。だからこそ、この時期の「子どもの泣き」への保育者の丁寧な関わりは、その後の子どもの目に見えない成長の大きな土台につながる、極めて重要な関わりだといえるのです。

次回は22日付掲載